

Title	<教室通信>学生の就職活動について
Author(s)	佐藤, 高史
Citation	Cue : 京都大学電気関係教室技術情報誌 (2018), 39: 60-60
Issue Date	2018-03
URL	http://hdl.handle.net/2433/235643
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

教室通信

学生の就職活動について

通信情報システム専攻 佐藤 高史

今年度、電気電子工学科と情報学研究科通信情報システム専攻の就職担当教員を仰せつかりました。電気系教室の諸先輩方には、リクルータ、人事担当者、または現場での受け入れに関わる担当者等として、就職を希望する学生への暖かいご指導、ご支援をいただきました。この場をお借りして深く御礼を申し上げます。

学生の就職活動については、ここ7～8年の比較的短期間に、活動時期や進め方が何度も変更されてきています。その影響や電気系教室全体としての対応についてはCUE第33号、35号の本欄でも和田教授、竹内教授よりご報告があったとおりです。その後も、平成28年度卒業・修了予定者から、「大学、短期大学、及び高等専門学校卒業・修了予定者に係る就職について（申し合せ）」にて通知された通りの変更がありました。すなわち、企業個別の広報活動は3月1日に開始、採用選考開始時期がその前年度から2ヶ月早まって6月1日の開始となりました。平成29年度も同様の申し合せが出され、今年度はこれに沿った就職活動となりました。平成28年度からの変更により、広報活動開始から採用選考までの期間の大部分が授業開講期間と重なっています。また、学生が企業訪問等を行う期間が短縮されています。このため各企業には、広報ならびに選考において教育研究に支障がないよう十分に配慮していただくこと、選考期間以前の採用選考を行わないことを申し入れており、結果として多くの企業にこれらを遵守いただいたものと認識しております。さらに、平成30年度卒業・修了予定者向けの上記申し合せでは、今年度の日程を維持する方針が示されています。同申し合せにおいてはまた、学生の学修環境の確保からは現行の日程が必ずしも最良とは言い切れないが、日程を維持定着させることで学生と大学が計画的に就職活動に対応できるようになることから以降は頻繁な日程変更を避ける旨の記載があります。当面は今年度と同様のスケジュールとなることが予想されますので、就職活動がより良く行える体制を作って行けそうです。

就職活動は、学生、大学、企業いずれにとっても大きなイベントであり、時にはそのマイナス点が強調されがちですが、学生にとっては貴重な成長の機会ともなっているものと思います。就職ガイダンスでは、本人の適性を踏まえつつ産官学の幅広い進路の選択肢を考慮するよう指導していますが、その直後に学生に就職を希望する企業を調査すると、回答は往々にして特定の狭い分野・企業に偏ります。その後学生は、洛友会が主催する「先輩と学生の交流会」や、情報学研究科が主催する「ICTイノベーション（産学官連携の促進を目的として開催されている交流イベントです）」等を通じた先輩方との交流に参加し、また企業研究や企業訪問を行うことで電気電子工学が関連する分野の広さに気づき、自らの進路を深く考え悩みながら、より様々な進路へ目を向けていくようです。さらに、学生と就職担当教員との面談や企業見学会等の個別の企業研究を通じて、就職を希望する企業を絞ります。少なくとも学生に話を聞く限りでは、就職活動においてこれら様々な機会に交流する先輩が果たす役割は相当に大きいようです。皆様には、機会あるごとに、良き先輩としてのアドバイスをお願いいたします。

グローバル化等により人材の流動化が進んでおり、今後も就職活動の形は緩やかに、時に急速に変化するものと考えられますが、卒業・修了後に大学を訪問いただくOB/OGの幅広い活躍の様子を聞くごとに、十分な基礎学力を習得しこれを高度な専門性や独創性に結び付けられる学生を育てることが電気系教室の変わらぬ役割と改めて感じます。今後も、電気系教室に対する一層のご支援をよろしくお願いいたします。